

第19回衛生工学シンポジウムプログラム 2011.11.14 更新

日時：2011年11月18日（金）

場所：北海道大学クラーク会館 札幌市北区北8条西8丁目 TEL:011(716)2111

講堂（口頭発表）、展示室（ポスター発表）

参加費：3,500円（但し特別シンポジウムのみ参加は無料）

9:30 受付開始

10:00 開会挨拶

松藤敏彦（北海道大学）

10:05 一般研究発表（ハイブリッド発表，口頭）

司会 栗原浩平（北海道大学）

C-1 太陽熱を利用した貯湯式給湯システムの性能評価に関する研究

－長期運転実績に基づく導入効果の評価－

○高田信一郎、濱田靖弘、村井拓矢（北海道大学）、中村 充（北海道ガス）、
浦崎博幸（日本海ガス）、加藤健一（京葉ガス）、水馬義輝（広島ガス）、
山本克也（西部ガス）

C-2 寒冷大気を活用したスノーキャノンによる製雪特性の解析

長田 勉（国策建設）、○柿山純一郎、井村祐介、濱田靖弘（北海道大学）、
小野孝之、橋本良明（国策建設）、山崎真也、佐藤貴季（ドーコン）、
窪田英樹（北海道大学）

C-3 衣服の色・熱・湿気特性が平均皮膚温に及ぼす影響

○谷地 誠、栗原浩平、窪田英樹、濱田靖弘、中村真人、長野克則（北海道大学）

C-4 下肢温浴に対する発汗・血流調節反応と生活習慣の関係

○森岡真也、前田享史、岡田恭明、横山真太郎、倉前正志（北海道大学）

C-5 室内微生物汚染低減への検討－弱酸性次亜塩素酸水を用いた加湿システムの開発－

○土志田卓、横山真太郎、前田享史、倉前正志、和田晋典、阿部堯広、樫本恭佑、
滝田純也（北海道大学）、吉岡誠記（三機工業）、
三田村隆、嶋倉一實（エコロフロンティア）

C-6 食品廃棄物エタノール化リサイクルシステムの実証試験結果について

○西本薫（代理講演，牧志諒）、加藤也寸彦、木内崇文、日高亮太（新日鉄エンジニアリング（株））

C-7 水道版 LCA 手法の研究 -水道事業の CO₂ 排出量の算定-

○山村佳裕（（株）クボタ）、井戸本篤、藤原正弘（（財）水道技術研究センター）

C-8 複合微生物生態系における未培養細菌の基質利用パターンと特異性

○金田一智規（広島大学），Marta Nierychlo, Caroline Kragelund,
Jeppe L. Nielsen, Per H. Nielsen（Aalborg Univ.）

C-9 膜分離活性汚泥法におけるファウリングモデルの構築

○長岡 裕、ラン・ムゾー（東京都市大学）

C-10 メタン発酵脱離液を対象とした ANAMMOX プロセスからの N₂O 生成特性

○笠原伸介（大阪工業大学）、麦本佑一郎（(株) 東京設計事務所）、
郷間優至（大阪工業大学）、佐藤久（北海道大学）、金田一智則（広島大学）

C-11 排水などの水質管理での簡便・迅速なアンモニア測定技術

○清水久子、安倍英雄、仲山正樹（セントラル科学（株））

C-12 インドネシア・カリマンタン熱帯泥炭湿地林形成モデルと水環境保全

○橘 治国（環境クリエイト、HIHC）、駒井幸雄（大阪工業大学）、瀧和夫（千葉工業大学）、
山本浩一（山口大学）、細川裕俊（環境クリエイト）、板倉忠興（リブテック）、
Rofiq Iqbal(ITB), Salampak Dohong, Untung Darung(UNPAE)

C-13 都会での水耕栽培による環境保全活動

○海賀信好、大瀧雅寛（お茶の水女子大学）、井上ひとみ（(財) 東京都予防医学協会）、
伊東豊雄（(株) 伊東豊雄建築設計事務所）、羽生裕子（(有) 東京水上倶楽部）、
成田眞治（NPO グリーンサイエンス 2 1）

10:45 一般研究発表（ハイブリッド発表，ポスター），企業展示

12:00 昼休み

13:00～14:30 ワークショップ「エネルギーの効率的利用・新エネルギー有効活用の現場」

司会 村尾直人（北海道大学大学院）

B-1 EU とドイツの再生可能エネルギーの普及状況とバイオマスエネルギーの位置づけ

石井一英（北海道大学大学院）

B-2 ライフサイクル CO₂ マイナス住宅の取組みについて

太田 勇（(株) ミサワホーム技術研究所）

B-3 スマートエネルギーネットワークの動向－札幌市版スマートエネルギーネットワーク－

岸本佳久（北海道ガス（株））

14:45～17:45 特別シンポジウム

「東日本大震災復旧・復興を契機とした新たな北大衛生工学の貢献」

【趣旨】

災害時のような特殊環境下であっても、人の健康と環境を衛るという衛生工学の目的が実現されるべく尽力することは我々の責務である。東日本大震災の発生した 3 月 11 日以降の我が国の状況を省みて、これまで確立してきた我々の知見や技術は十分だったのだろうか。ライフライン（上下水道，エネルギー）の被災とそこからの復旧，避難所の衛生状態の把握と改善（飲料水，トイレ，感染症），復旧に向けたガレキ撤去と適正処理等，従来の想定をはるかに超える甚大な被害は，我々に数多くの新たな課題を認識させた。加えて，本災害では原子力発電所事故による放射能汚染が，被災から半年が過ぎた現在においても深刻な影を落としている。我々衛生工学の技術者は本災害において何をし，何を学び，今後どのように変わっていけばよいのか，5 名のパネリストの報告とともに議論する。

プログラム

- 14:45～15:15 1.<東日本大震災発生後早期に生じた多くの課題（災害廃棄物を中心に）>
東條安匡（北海道大学大学院）
- 15:15～15:45 2.<水道分野における震災復興に向けた行政の課題と取組>
松田尚之（厚生労働省健康局水道課）
- 15:45～16:15 3.<宮城県南三陸町における緊急時給水支援>
武田智子（ヴェオリア・ウォーター・ジャパン株式会社）
- 16:15～16:45 4.<放射性物質に汚染された廃棄物の問題>
山田正人（国立環境研究所）
- 16:45～17:15 5.<東日本大震災復旧・復興を契機とした新たな北大衛生工学の貢献に関するタスクフォースまとめ>
石井一英（北海道大学大学院）
- 17:15～17:45 6.総合討論

18:00～ 懇親会（工学部食堂）

※工学部食堂は2009年4月8日に1階建てホール（テラス付き）として新設されました。

懇親会費：3,500円